

三浦半島初記録の淡水産エビ類ミゾレヌ マエビ (十脚目:ヌマエビ科)

山本健一郎*

First record of the freshwater shrimp *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) in the Miura Peninsula

YAMAMOTO Kenichiroh *

キーワード: 淡水エビ, 十脚目, ヌマエビ科, 分布, 三浦半島

Key words: freshwater shrimp, Decapoda, Atyidae, distribution, Miura Peninsula

筆者は現在, 三浦半島において淡水エビ類を継続的に調査している。2000年度にはテナガエビ科エビ類の調査報告を行った(山本, 2000)。その調査の時に採集された多数のエビ類の中に, 多くのヌマエビ科エビ類が混じっており, その中で見つかったミゾレヌマエビ *Caridina leucosticta* は三浦半島における初記録であるので報告する。

調査は日中, D型フレームネット(400 mm × 380 mm), 網目(2 mm × 2 mm)を使ってエビ類を採取した。捕獲したエビ類は現地において, 10% フォルマリン液で一時固定し, 翌日に80% アルコール液で最終固定後, 計測と同定を行った。

測定項目と方法は体長(目の付け根の後端から尾節末端まで)と頭胸甲長(目の付け根の後端

から頭胸甲の後端まで)をノギスを用い計測をした。

[ミゾレヌマエビ]

Caridina leucosticta STIMPSON, 1860

同定種の体長は29.8 mm, 頭胸甲長は6.5 mmである。

本種は淡水域と海水域を行き来する両側回遊種である。今回, 前田川で採集した場所は海から300 mほど行った水流の穏やかな, 水深が1.5 m くらいの深場であった。岸辺に草が生い茂り, その下部が水に浸かった所に生息していた(第1図)。

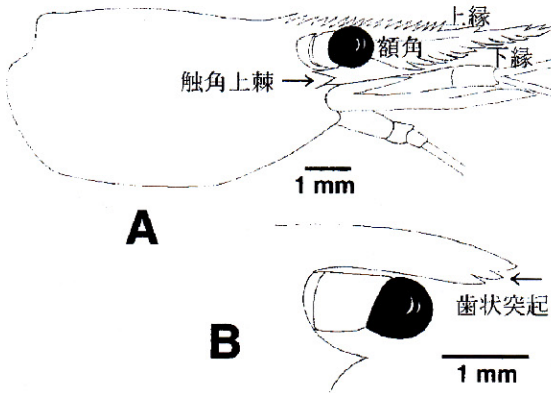


第1図 生息地の背景(前田川)。

体は細長く, 前に突き出した額角はほぼ水平である。また, 額角の歯状突起は上縁に17歯が密集して生え, 3歯が先端近くに, また眼のくぼみの後の頭胸甲上に2歯が有る。下縁には先端からやや離れて10歯が有り, その一つ一つが大きく, この種の特徴を良く現している(第2図)。背面の正中線上に1本の灰白色の線が体後部まで伸びている事と腹側部に黒褐色の波状の斑点が見られた。これはこの種の大きな特徴である。(上田, 1961; 林, 1989; 鈴木・佐藤, 1994; 浜野ほか, 2000)。

* 横須賀市自然・人文博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238-0016,

原稿受付2000年10月30日。横須賀市博物館業績第555号



第2図 ヒメヌマエビ属の頭胸甲における額角と棘の位置と名称 (A:ミゾレヌマエビ B:トゲナシヌマエビ)。

今回初記録となったミゾレヌマエビ *C. leucosticta* はヌマエビ科ヒメヌマエビ属に属している。ヌマエビ属とヒメヌマエビ属はヌマエビ属に眼上棘が有り、ヒメヌマエビ属に無いことよって区別できる。同属のヤマトヌマエビが眼のくぼみの後の頭胸甲上に歯状突起が無く、腹部に4条の線または点が現れることよって、また、トゲナシヌマエビが短い額角と少ない歯状突起（上縁に無歯まれに1歯、下縁に1-3歯まれに無歯）であることよって本種と判別できる（第2図）。

三浦半島において、これまでに報告されたヌマエビ科エビ類はヌマエビ・ヌカエビ・ヤマトヌマエビ・トゲナシヌマエビ・ミゾレヌマエビの2属4種1亜種となった（第1表）。（田村，1992；相模湾海洋生物研究会，1995；横浜市環境科学研究所，1996）。

謝 辞

本報告をまとめるに当たり、エビ類の同定のご教示を得、たくさんの貴重な文献をくださった農林水産省水産大学校の浜野龍夫博士に厚く

お礼を申し上げますと共に、三浦半島の河川調査で多大な協力をして頂いた茨城大学大学院生横山芳春氏およびよこすか自然環境探偵団の方々に感謝する。

第1表 三浦半島産ヌマエビ科エビ類リスト。

ヌマエビ科	<i>Atyidae</i>
ヌマエビ属	<i>Paratya</i>
ヌマエビ	<i>P. compressa compressa</i>
ヌカエビ	<i>P. compressa improvisa</i>
ヒメヌマエビ属	<i>Caridina</i>
ヤマトヌマエビ	<i>C. japonica</i>
トゲナシヌマエビ	<i>C. typus</i>
ミゾレヌマエビ	<i>C. leucosticta</i>

引用文献

- 浜野龍夫・鎌田正幸・田辺 力 2000. 徳島県における淡水産十脚類の分布と保全. 徳島県博研報, (10): 1-47.
- 林 健一 1989. 日本産エビ類の分類と生態. 海洋と生物, (62): 230-231.
- 相模湾海洋生物研究会 1995. 横須賀市内河川水生生物基礎調査報告書: 43-47. 相模湾海洋生物研究会.
- 田村敏夫 1992. 小網代の水生動物: 45 ページ. 品川文化堂, 横須賀.
- 鈴木廣志・佐藤正典 1994. かごしまの自然ガイド, 淡水産のエビとカニ: 64-65. 西日本新聞社, 福岡.
- 山本健一郎 2000. 三浦半島の淡水産テナガエビ科エビ類の分布. 横須賀市博研報〔自然〕, (47): 59-66.
- 横浜市環境科学研究所 1996. 大岡川・境川水系生態調査報告書: 環境研資料, (123): 195-202. 横浜市環境科学研究所.
- 上田常一 1961. 日本淡水エビの研究: 64-74. 園山書店, 出雲市.